

# 街を行く

第38回 ニューヨーク (その2) New York

## ドーナツの膨張現象

本連載でニューヨークを訪れるのは2度目です。古い友と語り懐かしい場所に佇むなど感慨ひとしおですが、過去に浸ってばかりはられません。何せこの街は日々新しい顔を見せてくれますから。今回は新しい顔の代名詞とも言える「ブルックリン」を散策します。マンハッタン東側を流れるイーストリバーを越えれば、もうそこはブルックリン。ですが、その前にグラウンド・ゼロ(WTC跡地)を訪ねてみることにします。巨大ブルーのような形状をした記念碑が2つ。その壁側面には犠牲者の名前が連なり、その中に日本人名があることも認められます。彼らの無念さがひしひしと伝わってきて、テロ事件のいたましさの記憶を決して風化させてはいけないと改めて感じました。さて、話をブルックリンに戻していきましょう。このイーストリバーを越えるには3つの橋(ブルックリン、マンハッタン、ウィリアムズバーグ)いずれかを渡ることになるのですが、今回はあえて34丁目からフェリーで行くことにします。フェリーは、観光客はもとより、地元住民にとっての生活の足でもあるようですね。以前は工場や倉庫が立ち並ぶだけの場所でしたが、今では若者に人気の街となっています。その代表格が「ウィリアムズバーグ」です。ウィリアムズバーグと言えば、バージニア州にある18世紀をそのまま再現した街として有名ですが、最近はこちらのほうが話題になっているみたいです。トレンドをしっかりと掴んだレストランやカフェ、色んなショップが集まり、若者の最新カルチャーの発信地として、この先ソー



イーストリバー沿いに見るマンハッタンのビューは最高!

ホーやビレッジに代わる日も遠くないかもしれませんね。その証拠に、アパート賃料がとて高額でマンハッタン並みになってきています。マンハッタンの強さは、そのステータスがドーナツのように空洞化するのではなく、ドーナツがどんどん膨らむように周辺部に拡がり続けていることです。ここからイーストリバー沿いに見るマンハッタンのビューは最高(写真)。ウォータフロント沿いにそびえたつプロジェクトは圧巻。東京で言えば芝浦から眺める有明やお台場ですかね。でも何か違うのはウォータフロントに歴史があるかないかの差。自然環境やお国の事情だから仕方ないのですが、あえて言ってみました。歴史的建造物がモダンなプロジェクトとうまく溶け込んでいます。その景観に新旧からくる不自然や違和

感、無理がみえないこと、これが上手な街づくりの秘訣のようです。街づくりにおいて、いかに歴史を保存し活かしていくか、ここが大事ですね。今回改めて感じさせられました。

### 南 一弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役役に就任。2006年株式会社ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。  
BLOG「南一弘の負けない不動産投資」  
[http://blog.livedoor.jp/minami\\_kazuhiro](http://blog.livedoor.jp/minami_kazuhiro)